

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0290400043		
法人名	290400043		
事業所名	黒石ケアサポートセンター（認知症対応型共同生活介護）		
所在地	〒036-0537 青森県黒石市赤坂字池田136番地		
自己評価作成日	平成29年7月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

相手に得を届けるため、なぜなぜ分析（過去・現在・未来、人・物・環境の視点）を繰り返し、分析結果を実践するための計画力を身に付ける
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの「わ」の理念があり、集会の場で確認したり、事務室内へ提示している。理念や事業内容が載った冊子を職員一人一人に毎年配布している。理念や行動方針に合わせた内容で実施し、理念に基づいたケアの実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームページや年4回の広報誌を発行し、事業所の情報や活動等をお知らせしている。ボランティア喫茶や納涼祭へ地域の方々を招いたり、小学校・保育園の訪問、運動会、発表会の行事に招かれたり交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館や施設を利用し勉強会の開催や、人材を育てる貢献として実習生の受け入れを幅広く行っている。田園福祉パーク開園5周年を記念し感謝フェアを開催している。地域の方々へ介護についての相談や情報発信を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	DVDやチラシを活用し、サービス内容についての説明や報告を行っている。委員から意見をいただき、分かりづらかった玄関入り口には施設案内図を表示した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な運営推進会議の開催、地域密着型事業者連絡会に参加し、事業者・行政間の連携や交流を図り介護サービスの質の向上を目指す関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の訴えや意思を尊重し、職員と一緒に散歩や外出ができる体制をとっており、行動の抑制をしないケアに日々取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の中で職員間で言葉掛け、ケアの方法について等話し合い、生活の質の向上に努めている。施設内に虐待防止についてのフローチャート掲示し見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修に参加し、理解を深めている。また、今年度の事業部目標の中で、制度などに関する資料を準備しており、職員一人ひとり情報交換しながら、理解や知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の自宅訪問や、施設見学を通し見て確認して頂く中で、納得を得られるように十分な説明を行っている。定期的に利用者、家族と話す時間を設け、不安や要望を理解し、サービスへ反映している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置と定期的に家族へアンケート実施し、内容について回答し公表している。又、1ヶ月に1回お客様の声を収集し、改善内容も含めた回答をホームページに公表している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、事業部会議にて各ケアの内容やカリキュラム、入居状況等について職員の意見を聞き、直接管理と情報交換しケアへ反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課ガイドラインの評価基準が明確になっている。有給休暇(夏季・誕生日)や5年ごとの勤続年数で定めるメニューから希望する1つの表彰を贈呈している。又、育児、介護休業、諸手当等が明確化しており、整備されている。子育てしている職員が働きやすいように市社協のファミリーサポートの活用をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修を掲示し、職員一人一人が、自発的に選択し受講できるようにしている。また、行動考課、階層別、事業部別に分け、達成された状況を考えながら、1年間の目標を立てケア向上へ繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内事業者で構成する地域密着型連絡会に参加し、他事業所と交流を図っている。他施設と合同で研修を実施し情報交換し、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、他施設とのマラソン大会、ボーリング大会、ソフトボール大会などにて交流を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に自宅や病院を訪問したり、施設を見学していただき利用者の状況を把握している。本人の生活背景、興味や意欲をもってできること、選択できることの観察と情報収集を一定期間重点的に記録し職員間の共有を図りご本人との信頼関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談や契約時には聞きとりや、説明に十分な時間をかけて対応している。また、いつでも相談していただくよう随時電話での受付をお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを傾聴し必要なことを見極め事業所としてできることを提案し、対応している。当事業所では対応できない場合には、関係機関と連携を図り適切なサービスが受けられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴や日頃の生活の中で、得意なことや好きなこと、できること、していることをアセスメントし、能力を発揮できるケアプランを組み入れ、共に支え合って生活する関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、本人のアルバムを活用しながら、家族へ日頃の生活状況等を報告している。又、年4回のお便りの発行や法人のホームページの中で行事等についても見る事ができる。ケアプラン更新時は都度本人・家族の思いを聞き取りしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人一人の生活を尊重し、昔から通っている美容院を利用したり、本人の友人や民生委員の方等が面会に来たりしている。散歩へ行くと同じ地区の知人等から声を掛けられたりと交流している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が思いを話したり、職員も一緒に会話できる空間と場所がある。又、居心地の良い空間と時間を過ごせるように食事席や居室の配慮を行っている。利用者が得意としている事や役割を発揮できる場を提供し利用者同士の関わり合い、支え合える環境になっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、相談等があれば、いつでも支援すること伝えている。当施設のサービス以外についても都度相談に応じ他事業所との連携を図り助言できる仕組みを整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の暮らしの中での会話、表情や言動、日誌などを通して思いの把握に努めている。カンファレンス時は課題整理表等を活用し、本人に必要なことや本人の見えている部分のみでなく、多方面からアセスメントを行い、居心地良く暮らしていける支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の面談時、本人や家族から生活歴や習慣などの情報収集している。又、日々生活の中で本人との会話や関わりの中で、昔の生活などの情報を得ている。又、他施設や医療機関からも情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、利用者一人一人の1日の過ごし方や心身の状態を把握している。変化や気付きは申し送りや会議の場で情報を共有し、利用者の状態把握やケアの見直しを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に対するニーズ、必要な支援方法をカンファレンスで話し合い、本人・家族の思いを確認しながらケアプランを作成している。ケアプランの実践を業務日誌に記録し、月1回のモニタリング時、評価している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのファイルがあり、日々プランを確認しながら実施できるようにしている。日誌へプランの実施状況を落とし込んだり、ケアプラン作成者からの意向を発信する等し全職員が情報共有し同じ対応が出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の要望に応じ、病院や買い物の付き添い、外出や外食等、臨機応変に対応しサービス提供している。他事業所で行われるクラブ活動や環境を活用してその時々ニーズに対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーや馴染みの美容院への外出支援、地域の保育園や小学校との交流の他、納涼祭やこども参観日、消防訓練等での地域の方々と交流している。その中で安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が安心して治療できるように、かかりつけの病院を受診している。本人の初診や転院が必要な場合は家族へ相談し同行依頼する等、都度情報を共有し、本人・家族が納得した上で適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で変化や気づきがあった際、看護と相談し適切なケアに繋げるため、看護視点での申し送りや記録を共有している。ケアプランに看護視点を反映した支援に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面談や面会にて状態確認を行い、病院、家族と情報交換をしている。また、地域医療連携とも状態に応じ今後の方向性について相談しながら本人、家族が安心できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて医療機関と連携しながら、家族が納得するまで話し合いを重ねている。様々な選択肢を提供し本人にとってより良いケアができるよう支援している。今年度看取りケアのマニュアル作成し他部門で開始となり、実践の仕組みを整え情報共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルの共有や、主治医との連携を図り緊急時の対応に備えている。事故発生時はリスク委員会からの様式（SHELLモデル）を、取り入れた報告書を元に検証した内容を職員間で共有し改善を図実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間での消防訓練を地域消防団の協力を得て行い、避難方法や通報装置の確認を職員同士、念入りに行っている。防災会議を設置しマニュアルの整備や災害時緊急メール配信の体制を整えている。福祉避難所として地域の方へ周知している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人自分の居室があり、プライベートな空間が確保されている。個人情報に関しては秘密保持に努めている。利用者に対して（目上）の言葉遣いにも注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や活動等、全てにおいて本人が選択して動けるよう声掛けしている。行事等にも同様に自ら参加したいと本人が選択できるようにしている。また、本人に合わせた嗜好も提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の身体面、精神面に配慮し気持ちを尊重し、自分のペースで過ごせるようにしている。入浴日、食事時間、就寝時間も本人の希望が反映されている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装を選ぶ方には、何を着たいか確認している。選ぶことができない場合でも上下の色合いや汚れに注意し、身だしなみを整えている。美容院への外出支援を行っている。訪問エステによる、マッサージ・アロマエステ・化粧と楽しみ、気分転換へ繋げている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好一覧表を作成し、食べれない、嫌いな食材がある時は厨房に伝票を出し代替食材を提供している。盛り付け、配膳、片付けは声を掛けたり自発的に行っている。食事前にサンプルを設置することで実際に目で見て食事に対する興味や関心を持てるような環境作りを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の病気、身体状況、嚥下状態の変化に対応できるよう日々の観察を行い記録し申し送りにて情報提供している。介護・看護・栄養士と連携し食事提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けをし実施されているが、不十分な利用者の方には義歯を洗い、感染予防や清潔保持に努めている。週1回義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	経過や状態変化時のアセスメントした記録を残し自力でできる部分、できない部分を共有し支援している。表情、動作からの訴えも見逃さないよう支援している。自尊心を傷つけることなく、その方に合った声掛けや支援方法を探り、実践することで、トイレでの排泄を確立した方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方へは水分を多めに促したり、表情や動作からの訴えも見逃さないよう努めている。腹部のマッサージ、施設内での歩行の促しを行っている。毎朝食後、乳製品（ヤクルト・牛乳）を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	大浴と個別浴があり、本人の希望や状態に応じ臨機応変に対応している。大浴は毎日稼働し小規模利用者との交流を持ち、楽しく入浴できる場となっている。個別浴も利用者の希望に応じ1対1でゆっくり会話し時間を気にせず入浴していたいっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体を動かし、適度な疲労を感じてもらい安眠促している。夜間、不安なことがあって目が覚めた利用者の方へ安心して眠れるような声掛けや会話をするよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホワイトボードを活用し内服変更時等の観察事項を記載して職員が分かるようにし日誌にも記入されている。薬剤情報はファイルに綴じ、いつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症に特化した活動を強化月間で実施し自発的に話す、動くことのできる環境を整えている。生活歴により得意なことや好きなことを把握し、活かせるような環境に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により外へ散歩に出掛けたり、玄関のベンチに座って涼んだりしている。また、ドライブや、買い物も利用者と一緒に出かけ購入する事もある。家族による外出支援や、外泊も行われている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設側で行っているが、週に1回の訪問販売や、買い物の希望があればいつでも使用できる環境となっている。買い物支援の際は、支払いできる方は支払いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば公衆電話を利用し、やり取りを行っている。遠方の家族からの電話を受けた際は子機を使用し、ゆっくり話せるよう配慮している。年末は年賀状を送り、疎遠にならないよう関係作りをしている。家族からは毎年定期で荷物が届いている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境美化係を設け共有空間（居間・食堂・玄関）で季節感や生活感を感じていただくようにしている。また、玄関や食堂に季節感を感じるレイアウトも行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やリビングに椅子やベンチ、ソファを設置している。気分や状態に応じて自由に移動できる空間を設置し、思い思いに過ごして頂いている。併設している小規模多機能へも自由に入出入りすることで食事や活動ができる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の中に遺影を置いたり、仏具を置きその方の思いを組み込んだレイアウトを設定している。毎日も水を交換し、供えている利用者もいる。また、各居室にエアコンを完備している。その方の状態に合わせてベッドの位置や高さを調節し、気持ち良く過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分からない方に目印を付けたり、自力歩行可能な方には、リビング、居室間の長い設定を作っている。また、筋力維持の為に、自らリハビリができるように廊下に、リハビリ内容（足型や線を貼る）を設置している。安全面に配慮し、居室入り口やお風呂場などに手すりを増設している。		